

2022年度事業報告



学校法人 城星学園

はじめに

学校法人の健全経営とともに充実発展をはかるため、2022年度においては、理事長の「中期および2022年度基本方針(別掲)」に基づいて、各校種が一つになって、学園の建学の精神のもとに教育活動を推進した。また、2022年度は、学園創立70周年を迎える年度であり、創立70周年記念募金募集開始、70周年記念講演会、70周年記念小冊子作成・70周年記念コンサート開催等記念行事等を実施し、子ども達、教職員、保護者、同窓生、その他学園ゆかりの方々で改めて学園創立の思いを共有した。創立者ドン・ボスコの「こどもを愛するだけでは足りない、こどもが愛されていると感じなければならない」という言葉に代表される教育理念は再認識され、その教育理念のもとに、今後も本学園の教育活動を展開していく。

また、外部に対する情報公開とともに積極的な自己点検評価・学校評価が求められており、2022年度においても学園後援会との連携のもと、全保護者あてにアンケートを実施し、貴重なご意見が多数寄せられた。その結果を学園の教育活動に活かしながら、2022年度学校評価としてまとめた上で情報公開するとともに、2023年度に向けてさらに充実した評価活動の実施と教育活動のさらなる充実・推進に繋げていきたい。

《中期および2022年度基本方針》

1. ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。
(現代における「良心的な人間、良き社会人」のあり方についての認識を深め、それを日々の教育活動に活かす。)
2. 園児・児童・生徒・教職員が“Niente ti turbi.”(「何も恐れることはない」)を実感できるような教育環境を創造する。
(施設・設備・体制面での「安全」に加え、心理面での「安心」を高める。)
3. 学園教職員の多岐にわたる研鑽の結果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。
(教職員がともに学び合う機会を増やし、その学びの成果を学園内外に発信する。)
4. 学園教職員全体が、学園の未来をともに築き支えていくという意識に基づき行動する。
(校種間の連携をさらに深め、学園の総合的資源の増大に努める。)
5. 保護者・同窓生・姉妹校の教職員・教会関係の人びと・地域社会の人びととの「アシステンツァ」を深める。
(「城星ファミリー」の親密性を高めるとともに、その輪をさらに広げる。)

《2022年度取り組み事例》

- ・2022年度総合スポーツ教育センターの設置と2023年度学童保育実施準備。
- ・創立70周年記念募金募集開始、70周年記念講演会、70周年記念小冊子作成・70周年記念コンサート開催。城星友の会設立準備。
- ・創立100周年に向けてのランドデザインの検討。
- ・「ヴェリタス城星学園中学校高等学校」への校名変更および中高の教育刷新。
- ・小学校での児童会主導による姉妹校との交流会開催および若手教員育成のためのショート研修実施(毎週月曜日開催)。
- ・幼稚園未就園児対象の体験広場や預かり保育等による子育て支援の実施。
- ・各校種の自己評価及び学校評価(全保護者アンケート)の実施。
- ・教員の宗教研修、人権研修(いじめ関係など)の実施。
- ・大阪星光学院との連携協力の継続実施。

次頁より、各校種の教育活動等について報告する。

1. 法人の概要

建学の精神 : 城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ（ドン・ボスコ）の教育理念である『道理』と『信仰』と『愛』に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切にする『良心的な人間、よき社会人』を育成することを使命とする。

所在地 大阪府大阪市中央区玉造2丁目23番26号

法人成立の年月日 昭和28年3月25日

学校設置認可年月日

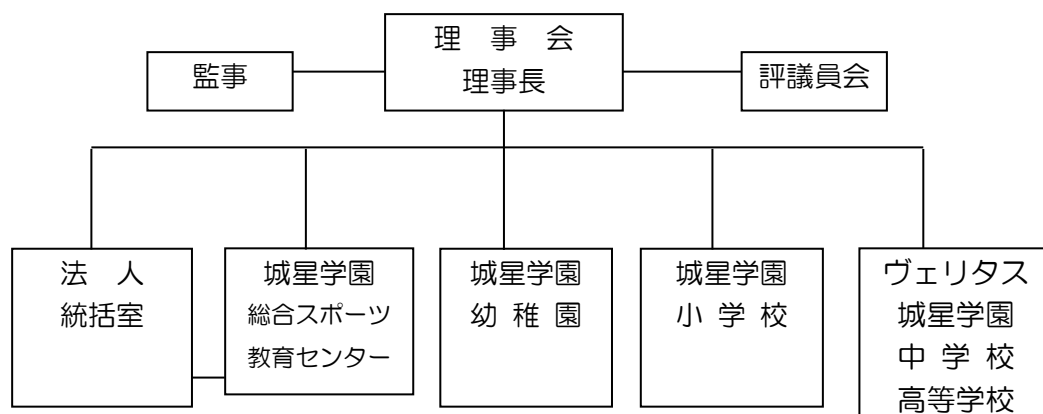
幼稚園 昭和28年3月16日

小学校 昭和28年3月16日

中学校 昭和34年2月27日

高等学校 昭和37年1月14日

学校法人 城星学園 組織図 (2023年4月1日現在)



1) 設置学校及びクラス数

(2023年度)

城星学園幼稚園	城星学園小学校	城星学園中学校	城星学園高等学校(全日制普通科)
3年保育 3クラス	1年 4クラス	—	1年 Allegro コース、Vivace コース混合 2クラス
2年保育 3クラス	2年 4クラス	—	2年 Allegro コース1クラス、Vivace コース1クラス
1年保育 3クラス	3年 4クラス	3年 1クラス	3年 Allegro コース 2クラス、Vivace コース1クラス
計 9クラス	4年 3クラス	計 1クラス	計7クラス
	5年 3クラス		
	6年 3クラス		
	計 21クラス		

(2022年度)

城星学園幼稚園	城星学園小学校	城星学園中学校	城星学園高等学校 (全日制普通科)
3年保育 3クラス	1年 4クラス	—	1年 Allegro コース 1クラス、Vivace コース1クラス
2年保育 3クラス	2年 4クラス	2年 1クラス	2年 Allegro コース 2クラス、Vivace コース1クラス
1年保育 3クラス	3年 3クラス	3年 1クラス	3年 Allegro コース 2クラス、Vivace コース1クラス
計 9クラス	4年 3クラス	計 2クラス	計 8クラス
	5年 3クラス		
	6年 3クラス		
	計 20クラス		

2) 定員および在籍者数(各5月1日現在)

年 度	幼稚園 (定員 280)		小学校 (定員 600)		中学校 (定員 180)		高等学校 (定員 450)		計	増減 (対前年度)
	クラス	現員	クラス	現員	クラス	現員	クラス	現員	現員	
2023	9	274	21	639	1	17	7	130	1,060	△17
2022	9	265	20	623	2	39	8	150	1,077	△16

3) 役員等・教職員

役員等:

年 度	理事	監事	評議員
2023	7人	2人	16人
2022	8人	2人	18人

教職員：

(5月1日現在) (人)

年 度	幼稚園			小学校			中学校			高等学校			法人統括室			総合スポーツ教育センター			計
	専任	常勤	非常勤	専任	常勤	非常勤	専任	常勤	非常勤	専任	常勤	非常勤	専任	常勤	非常勤	専任	常勤	その他	
2023	13	6	10	27	11	5	1	1	0	14	5	15	10	1	2	5	2	40	168
	計 29			計 43			計 2			計 34			計 13			計 47			
2022	13	6	10	27	12	2	1	3	0	17	5	15	10	1	3	2	3	32	162
	計 29			計 41			計 4			計 37			計 14			計 37			

4) 役員会の開催

① 理事会・評議員会

理 事 会： 2022年 5月
 2022年 8月
 2022年10月
 2022年11月
 2023年 3月

評議員会： 2022年 5月
 2022年10月
 2023年 3月

② 監 査： 2022年 5月

2. 募集計画及び教育計画等

()は内部進学者数。

年度	区 分	幼稚園			小学校	中学校	高等学校
		3年保育	2年保育	1年保育			
2024	新入生募集人員	90	若干名	若干名	約100	募集停止	75
2023	新入生募集人員	84	若干名	—	100	—	75
	志願者数	149	7		236	—	43
	受験者数	123	7		217	—	43
	合格者数	104	4		146	—	43
	入学者数	89	4		118 (37)	—	37 (17)
2022	新入生募集人員	84	若干名	—	100	—	75
	志願者数	154	10		218	—	52
	合格者数	102	6	0	130	—	52
	入学者数	93	5		116 (37)	—	43 (21)

学校法人城星学園 中期行動計画-2022年度のふりかえり

建学の精神:

城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ(ドン・ボスコ)の教育理念である『道理』と『信仰』と『愛』に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切にす『良心的な人間、よき社会人』を育成することを使命としています。

教育理念:

「教育は心の問題であり、青少年を愛するだけでは足りません。青少年が愛されていると感じられるように彼らと共に生きる」

【中期方針・2022年度部門別行動計画及びその評価】

《次頁以下のとおり。》

法人統括室

中期方針	2022年度方針	中期行動計画	2022年度行動目標	ねらい（評価のポイント）	年度評価
1.ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。	現代における「良心的な人間、良き社会人」のあり方についての認識を深め、それを日々の教育活動に活かす。	教育活動の質の向上に向けた後方支援活動を充実していく。	(1)ドン・ボスコ、マリアマザレロ関連研修を実施する。	教育理念の深化	○
			(2)各校種の行事への積極支援を行う(運動会、遠足、入試など)。	校種間の連携強化	○
			(3)オンライン授業やリモートワーク機能を充実させるための設備整備を行う。	アフターコロナの準備	○
2.園児・児童・生徒・教職員が”Niente ti turbi.”(「何も恐れることはない」)を実感できるような教育環境を創造する。	施設・設備・体制面での「安全」に加え、心理面での「安心」を高める。	子供たちにとって安全で優しい教育環境づくりを行う。	(1)津波・地震・不審者など、各状況に応じた訓練を実施する(コロナ渦での動きを想定した訓練)。	有事の際の臨機応変かつ迅速な対応力向上	△
			(2)安心・安全に根ざした施設設備の点検を行う。	ケガの発生率の低減	△
			(3)With コロナ時代の教育環境に基づき新たな安全体制を整備する。	現在の状況を踏まえた上で教育環境整備	○

3.学園教職員の多岐にわたる研鑽の成果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。	教職員がともに学び合う機会を増やし、その学びの成果を学園内外に発信する。	ともに学び一人の人間としても磨きをかけながら、良識ある人間、良き社会人の範を示す。	(1)新規入職者向けの、ビジネスマナー等の基本スキルの研修やカトリックについての研修を実施する。	社会人としてのマナー、モラル等の向上	○
			(2)地域への貢献を深め、地域に根付いた学園づくりを行う。	地域との結びつきの中での教育活動のさらなる充実促進	△
			(3)各校種教職員同士の交流を深め連携強化に努力する(合同研修等の企画・参加)	連携強化の促進	△
4.学園教職員全体が、学園の未来をともに築き支えていくという意識に基づき行動する。	校種間の連携をさらに深め、学園の総合的資源の増大に努める。	創立70周年から100周年に向けたグランドデザインを検討する。	(1)総合スポーツ教育センターを設置し、学園後方支援を充実させる。	多様な活気のあるクラブ活動や体育授業の実施	○
			(2)100周年に向けた具体的なビジョンを作成する。	100周年の具体的なビジョンを各教職員に周知	△
			(3)寄附金募集活動の定着と寄附による教育設備充実をはかる。	寄附金の効果的使用と公表	△

5.保護者・同窓生・姉妹校の教職員・教会関係の人びと・地域社会の人びととの「アシステツァ」を深める。	「城星ファミリー」の親密性を高めるとともに、その輪をさらに広げる。	城星ファミリーの絆を深めていくための仕組みづくりを検討する。	(1)城星学園友の会を結成する。	城星学園応援団結成と学園との連携形態確立	○
			(2)地域防災への取り組みを行う(城星学園、カテドラル、大阪女学院の3者会議の実施)。	地域との協力体制の構築	△
			(3)友の会・オラトリオ・総合スポーツ教育センターの連携をはかる。	城星ファミリーの拡大、地域への貢献	△
6.教育計画		2023年度学童保育「城星オラトリオ」の実施に向けた計画、準備を綿密に行い、2023年度より実施する。	(1)学童保育運営のマニュアルを作成する。	城星学園の特色が活かされた学童保育の計画	○
			(2)学童保育の実施に向けた安心・安全な施設設備を整備する。	保護者・児童のニーズに対応した質の良い学童保育の提供	○
7.募集計画		学園全体の広報活動を展開していく中で、園児・児童・生徒の募集に寄与していく。	(1)渉外活動を活発に行う。	城星学園を多方面の方に知ってもらうための戦略の明確化と周知度アップ	○
			(2)城星学園アプリを開発する。	誰もが気軽に使用できるツール作成を通じての時代に合った取り組み実施	△

幼稚園

中期方針	2022年度方針	中期行動計画	2022年度行動目標	ねらい（評価のポイント）	年度評価
1.ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。	現代における「良心的な人間、良き社会人」のあり方についての認識を深め、それを日々の教育活動に活かす。	<ul style="list-style-type: none"> ・創立者ドン・ボスコならびにマリア・マザレロの精神を受け継ぐべく、教職員研修を深める。 ・アシステンツァの理解を深め、「良心的な人間、良き社会人」としての礎を育成すべく、あらゆる教育活動の実践につなげる。 	(1)カトリック精神に基づいた教育活動の実践と、さらなる深化充実に向けた研鑽を積む。	サレジアンファミリーとしての自覚と意識改革を前提とした日々の行動変容の出現	○
			(2)「予防教育法」の理解と実践につなげるべく研修内容を吟味し、日々の教育活動に活かす。	学園の特長の発信による保護者との信頼関係構築かつ子どもの育成への寄与	○
2.園児・児童・生徒・教職員が”Niente ti turbi.”(「何も恐れることはない」)を実感できるような教育環境を創造する。	施設・設備・体制面で「安全」に加え、心理面で「安心」を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・時機に応じた避難訓練の実践を通じた安全教育を行う。 ・子どもの安全、保護者の安心を具現化した教育環境整備の充実を図る。 	(1)防災・減災・防犯等考え得る様々な危機管理意識に基づいた訓練を実施し、体制強化に努める。	教職員・園児の意識改革と日常の行動変容	○
			(2)安全・安心に直結する教育環境(施設・設備)の整備を徹底し、危険回避を図る。	危険箇所や事象の迅速かつ正確な発見と対処	○
3.学園教職員の多岐にわたる研鑽の成果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。	教職員がともに学び合う機会を増やし、その学びの成果を学園内外に発信する。	<ul style="list-style-type: none"> ・園内外の研修会の深化充実及び、獲得したスキルの伝達講習の実践。 ・新しい定義における学力(生きる力)を醸成する指導法の研鑽。 	(1)カトリック園独自で行っている研修会により多くの教職員が参加し、研修を深め、スキル獲得を目指す。	園児一人ひとりが神のまなざしのもとで誠実に行動し、善を選び取れる人格形成の基礎作り	△
			(2)教育要領が示す育ってほしい10項目に照準を合わせた園内研修テーマを策定し、実践に活かす。	園児の協調性や責任感の醸成、自ら考え正しく行動できる力と他者との関係における解決力の習得	△

4.学園教職員全体が、学園の未来をともに築き支えていくという意識に基づき行動する。	校種間の連携をさらに深め、学園の総合的資源の増大に努める。	・園児が他校種の児童・生徒と交流できる機会を設ける。 ・教職員間の意見交換の場の設定を図る。	(1)各校種の行事を策定する際に、積極的に交流の機会を企画する。	校種間連携実践につながる行事の見直しなど積極的な行動	△
			(2)教職員間の意思疎通を図るべく、校種の垣根を越えた場作りに努める。	校種間の円滑な連携の保護者理解	△
5.保護者・同窓生・姉妹校の教職員・教会関係の人びと・地域社会の人びととの「アシステンツァ」を深める。	「城星ファミリー」の親密性を高めるとともに、その輪をさらに広げる。	城星学園を取り巻く様々な支援組織・団体との連携を深める。	(1)社会環境を構成する包括的複合体としての諸団体・組織との連携を深め、支援の輪を拡げる。	城星ファミリーの一員としての自覚と責任感の醸成	○
6.教育計画		子どもの実態に則した研修計画を立案し、各学年の年齢に応じた園内研修を実践する。	教育要領に則った保育計画の立案・実践を通して「生きる力」の基礎作りを図る。	日々の教育活動を通じた保護者の理解と信頼の獲得	○
7.募集計画		過去の入試結果を綿密に分析し、前例に捉われない刷新的な園児募集を実践する。	園の魅力や教育方針を様々な機会や情報ツールを用いて、積極的に発信する。	新入園児(3歳児クラス)3クラス90名の確保	○
			小中の校種間連携をさらに強化し、学園内での進路選択の拡充につなげる。	保護者理解の深化、コンスタントな30名前後の進学	△

小 学 校

中期方針	2022 年度方針	中期行動計画	2022 年度行動目標	ねらい（評価のポイント）	年度評価
1.ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。	現代における「良心的な人間、良き社会人」のあり方についての認識を深め、それを日々の教育活動に活かす。	(A)ミッションスクールとしての意義をより強く認識する。	達成可能な個々の目標設定のもと、理想の児童像である「光の子」を育成するため、宗教研修を活性化し、カトリック教育に対する理解や教員同士の信頼関係の深化を図る。	無条件の愛情によるミッションスクールとしての存在意義の認識	○
		(B)ミッションスクールとしての特性を具現化する。	ドン・ボスコ、マリア・マザレロを初めとする聖人の生き方に倣う。強いられてするのではなく、すべてのことに愛をもって行うように努める。宗教行事、宗教科、宗教科道徳の時間との関連を図る。	ファッチョイオの精神に支えられた、良心に基づいた意識の変化と行動の変容	○
		(C)保護者の理解度を向上させる。	保護者勉強会、ドン・ボスコ勉強会を実施し、ドン・ボスコ、マリア・マザレロが生きた時代の社会情勢や風土をもとに、その教育についての理解を深める。	カトリック精神及び創立者ドン・ボスコ・共創立者マリア・マザレロに対する保護者の意識高揚と教育共同体としての行動の変化	△

2.園児・児童・生徒・教職員が”Niente ti turbi.”(「何も恐れることはない」)を実感できるような教育環境を創造する。	施設・設備・体制面での「安全」に加え、心理面での「安心」を高める。	(A)各学年にふさわしい安全教育・健康教育を実施する。	学年別各種教室を実施する。コロナ感染症等予防教育を中心に安全で安心な登下校指導に重点を置き、巡回指導を強化する。避難訓練を実施する。	児童及び教員の安心、安全な生活に対する意識高揚、具体的な行動の確認	△
		(B)危機管理研修を実施する。	心肺蘇生法研修を実施する。新1年生対象に災害時児童引渡し訓練を実施する。また、発達段階に応じた防犯訓練を実施する。	週1回の校舎内運動場の安全点検及びけが0デー(毎週金曜日)の意識化	△
		(C)健全な人間関係の育成に重点を置く。	ドン・ボスコの予防教育の励行とともにいじめアンケート等の実施、教育相談室との連携を通して児童の人間関係づくりに励み、明るく楽しい学校づくりに専念する。	緊急時における防火・防災に関する意識高揚	○

3.学園教職員の多岐にわたる研鑽の成果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。	教職員がともに学び合う機会を増やし、その学びの成果を学園内外に発信する。	(A)アシステンツァを励行する。	「いつもどこでも子どもと共に」の実践を図る。児童が愛されていると感じる指導の在り方、言葉のかけ方を考える。	優しさと自由に根ざした教育共同体としての信頼関係の確立	○
		(B)ドン・ボスコの予防教育法に基づく信頼関係の構築	「強いられてするのではなく、すべてのことに愛をもって行おう」の実践に精励し、教職員や保護者との分かち合いを行う。	サレジオ家族の一員としての意識化	○
		(C)発達段階や個別能力に応じた教科研究を実施する。	児童・保護者のニーズに応えるべく、学年や教科主体での研究活動の強化とともに全体レベルでの深化を図る。また、場合によっては、Zoom 配信動画配信等による教育活動の実施を行う。	自主自律の学習意欲の向上	○

4.学園教職員全体が、学園の未来をともに築き支えていくという意識に基づき行動する。	校種間の連携をさらに深め、学園の総合的資源の増大に努める。	(A)校種間の連携を強化する。	授業参観や研究授業等を通して、幼・小・中高の教員の連携を強化し、交流を図る。	幼小中高教員の連携強化	○
		(B)サレジオ一貫教育を強化し、大阪星光学院との連携を深める。	合同研修会、ほしゼミ、チャレンジゼミを継続維持し実施する。	サレジオ家族の一員としての意識強化	○
		(C)府内カトリック私立中学校及び私立女子中学校との連携を図る。	前年度発足の進路指導部の展開と定着化を行う。賢明,信愛,ヌヴェール,アサンプション,プール。特別枠として星光,明星。	児童の学力保障と進路指導の強化	△

5.保護者・同窓生・姉妹校の教職員・教会関係の人びと・地域社会の人びととの「アシスタント」を深める。	「城星ファミリー」の親密性を高めるとともに、その輪をさらに広げる。	(A)保護者と寄り添いながら共通理解を図る。	児童の発達段階に応じて、話題を共有し合い,成長を確かめ合う機会をより多く持つ。	家族的な雰囲気,教育共同体の一員としての自覚の促進	△
		(B)小学校同窓会(FDDB)との連携を図る。	城星フェスタや学校行事,日常生活の必要に応じて,教育活動に理解,協力を願う。	城星ファミリーとしての同窓会との連携	△
		(C)地域社会の人々との関わりを深める。	登下校や日常生活の中でお世話になっている方々に挨拶や感謝の気持ちを伝える。	サレジオ精神の実践化	△

6.教育計画	(A)アシステンツァを励行する。	「いつもどこでも子どもと共に」の実践を図る。児童が愛されていると感じる指導の在り方、言葉のかけ方を考える。	家族的雰囲気の中での教育効果の向上	△
	(B)「城星オラトリオ」の発足に向けて、実施可能な活動を立案計画する。	ドン・ボスコの予防教育法に根差した、かつ保護者のニーズに合った学童保育の在り方について模索する。	サレジオ家族の一員としての意識化	△

7.募集計画	(A)学校の魅力を発信する。	保育所・幼稚園・幼児塾への管理職、入試担当者と若い教員での訪問を行い、心と学びの根っこを育てる教育の発信を行う。	2期制の実施と新入生約100名の確保	○
	(B)説明会・オープンスクール等を実施する。	学校説明会2回、オープンスクール2回、zoom配信による説明会、個別説明会を実施する。また、各幼稚園、塾への案内及び近隣塾への小規模説明会を実施する。また、入試速報会を行う。	宗教教育をベースにした心技体バランスのとれた児童を育成する学校であることと教育改革の進捗状況の周知	○

中学校・高等学校

中期方針	2022年度方針	中期行動計画	2022年度行動目標	ねらい（評価のポイント）	年度評価
1.ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。	現代における「良心的な人間、良き社会人」のあり方についての認識を深め、それを日々の教育活動に活かす。	ドン・ボスコやマリア・マザレロの教育理念に加え、フランシスコ・サレジオや教皇フランシスコの教説についての学びを深め、その成果をカリキュラムの中で具体化する。	(1)校訓唱和の時間を作り、カトリック女子校としての心の深化を図り、人としての自律と、柔和と慈愛に満ちた信頼関係を作る。	いじめのない学園作り	○
			(2)「ファッチョ・イオ」の積極的な精神を発揮する勇気をもてるよう、カトリック団体と連携したボランティア活動やHR活動を活発化する。	いきいきとした生徒の心身の育ち	○
			(3)教皇フランシスコのメッセージを理解し、現代における「良心的な人間、よき社会人」のあり方についての学びを深める。	現代における「良心的な人間、よき社会人」の育成	△
2.園児・児童・生徒・教職員が”Niente ti turbi.”(「何も恐れることはない」)を実感できるような教育環境を創造する。	施設・設備・体制面での「安全」に加え、心理面での「安心」を高める。	外部の資源を可能な限り活用しながらきめ細やかな生徒対応を行い、生徒の自己肯定感・自尊感情を向上させる。	(1)ミマモルメを一層、有効活用し、よりの確な情報を発信していく。	ミマモルメの有効利用	○
			(2)行事企画やルール作りへの生徒の関与をより高め、生徒が「ヴェリタス城星学園中高」の創造に関わっているという意識を持てるように導く。	生徒の自己肯定感・自尊意識の向上	○
			(3)過去の教育相談事例などの記録を匿名データとして整理し、学園教職員間でアシステンツァの意識を高め、その情報を共有する。	アシステンツァのために siems の活用	△

3. 学園教職員の多岐にわたる研鑽の成果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。	教職員がともに学び合う機会を増やし、その学びの成果を学園内外に発信する。	教職員の研修や自己研鑽を積極的に支援するとともに、教職員間の研究会・親睦会の機会を増やす。	(1)「学びの森」を軸に、教職員が探究と創造の姿勢を高めることで、多様で柔軟なプログラムの作成を進め、学ぶ楽しさのあふれる環境を作る。	あふれるような学ぶ楽しさの実現	○
			(2)「教職員文庫」や「教職員の学びのデータライブラリ」を設ける。また、教職員の芸術鑑賞会を開催する。	教職員の学び	△
			(3)教職員の ICT リテラシーをさらに高め、打ち合わせや会議、報告・連絡・相談をより緊密に行う。	教職員の連携の向上	○
4. 学園教職員全体が、学園の未来をともに築き支えていくという意識に基づき行動する。	校種間の連携をさらに深め、学園の総合的資源の増大に努める。	サステナビリティについての意識を高め、学園が持つ資源の効率的配分・利用を教職員全体で検討する。	(1)幼・小・(中)高それぞれの学びの感動を豊かにし、次の校種に導いていく素晴らしさを教職員が共有するため、全体研修会や交流会をもつ。	はぐくみの園としての意識の向上	○
			(2)弁論大会等を企画し、現代の社会や国際情勢、地球環境について、未来を担う若者の思いをぶつける機会を作る。	小中高生の協働意識向上	△
			(3)「学びの森」の新しい教育の展開が、中高にとどまらず、校種を超えた交流を生み出し、城星学園全体の教育活動の成長に繋げる。	校種を超えた教育活動の実践	○

5.保護者・同窓生・姉妹校の教職員・教会関係の人びと・地域社会の人びととの「アシステンツァ」を深める。	「城星ファミリー」の親密性を高めるとともに、その輪をさらに広げる。	「城星ファミリー」との関係を深め、教育活動面での具体的な協働の可能性を模索する。一方で、本校がリカレント教育の場としての役割を果たすことをめざす。	(1)70周年記念の各種イベント等を通じて「城星ファミリー」の親密性を高める。	城星ファミリーの活性化	△
			(2)保護者会や面談の機会以外に、保護者の交流の場を作り、保護者に寄り添う「大人の学びの時間」を作る。	保護者へのアシステンツァ	△
			(3)姉妹校・教会関係の人びととの情報交換を活発に行い、未来志向の積極的意見交換の場を作る。	未来志向の意見交換	△
6.教育計画		自主的学びのできる生徒を育てるために、与えすぎの教育からの脱却をめざす。	(1)できる限りの「自由化」を図り、日々に喜びを感じ、将来の夢が見出せるような「主体的学び」の空気を作る。	〈今、生き生き〉の場の創造	○
			(2)「学びの森」や生徒会、その他の活動を通して、生徒が積極的にチームや仲間を得て目標に向かって協働し、その成果発表の場を設定する。	生徒の多様な活動とその成果発表の促進	○
7.募集計画		広報活動の再設計を行い、学校のイベントへの参加者を増やす。	数値目標は一学年75名。様々な困難の中、今以上をめざし、一丸となって取り組む。	数値目標の実現	△
			公立中学校への「出張授業」を通じて本校教職員の指導力を外部にアピールする。	指導力のアピール	△

3. 施設設備計画（報告）

教育環境整備の一環として、次の工事等を実施した。（500万円以上のもの）

工事・設備等名称		執行金額（円）
①	キュービクル交換	17,600,000
②	小学校棟各教室 AP 導入	5,401,000
③	新園舎空調工事	8,030,000
④	小学校和式トイレ改修工事	7,260,000
総 計		38,291,000

財務状況（報告）

令和4年度に限り、修道院土地建物の現物寄付により、約12億円の収入増となったが、今後、各校種の適正な学費の設定、人件費比率の改善、各経費の見直し等を行いながら、収支の改善・安定を求めている。

